

小林英夫 （ひこぞう） 言語學者、文學博士。明治二十六年一月五日東京生れ、昭和五十二年十月五日没（一九三―七八）。筆名コバヤシビデオ等。

昭和二年東京帝國大學文學部言語學科卒。京城帝大、早稲田大學、東京工業大學、名古屋大學各教授歴任。

譯書の、ソシユール著『言語學原論』（改譯新版・昭和十五年二月）

白岩波書店）、シャルル・バイネ著『言語活動と生活』（昭和十六年

二月）二十四白岩波書店「岩波文庫」）、ビョルンソン作『アルネ』（昭

和十七年六月）白岩波書店「岩波文庫」）、エリヤスベルク著『ロシ

ヤ文學史』（宮下義信共譯、昭和十八年九月）白岩波書店）、『言語

研究・現代の問題』（譯編、昭和二十年一月十五日養徳社「甲島學

書」）、シャルル・バイネ著『一般言語学とフランス言語学』（昭和

四十五年八月）白岩波書店）、ソシユール著『一般言語学講義』

（改版・昭和四十七年十一月）二十（白岩波書店）、ルイス・デ・カモ

ンイス著『ウズ・ルジアダスールシタニアの人の心』（池上岑夫・岡

村多希子共訳、昭和五十二年十月）十七（白岩波書店）等。著書に『批

判的』一般文法の原理』（昭和七年十一月）、二十（白岩波書店）、詩集『感

傷時代』（昭和十一年九月五日序、

無刊記）、『文體雜誌』（昭和十七

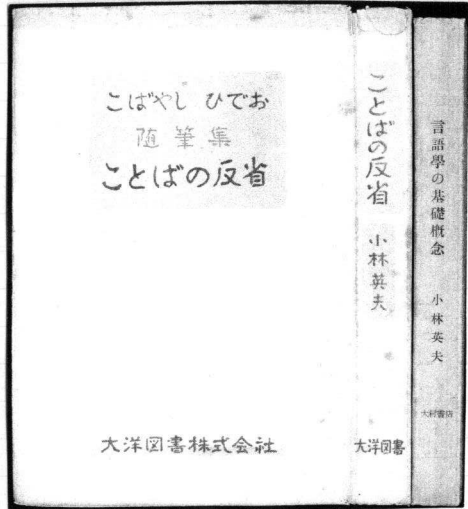
年八月）二十一（三省堂）、『文體論

の建設』（昭和十八年五月）白岩英

書院）、『文體論の美学的基礎』

け』（昭和十九年六月）白岩英書

房）、『言語學通論』（改訂第二版



・昭和二十一年十月、二十五年三省堂出版株式會社）、コ文體論の理論  
と實踐』(昭和二十二年八月十五日八雲書店)、隨筆集コいづはの反  
省』(昭和二十五年五月、二十日大洋圖書株式會社)、コ言語學の基礎  
概念』(改訂版・昭和二十六年八月二十日大村書店)等。